

ゆうりんの家 通信

編集 NPO法人 ゆうりんの家 第9号
京都市伏見区深草西浦町4丁目18番地
TEL (075) 641-1661
FAX (075) 641-1665
発行日 2006年7月18日 編集者 船曳 朋子

夏目前、梅雨も重なり蒸し暑い日が続いていますね。私は、すでに夏バテ気味です・・・(+o+)
心と体で楽しむ夏のイベントが盛りだくさん
今回の通信では、夏間近ということで、花火大会・プール情報など夏のイベント情報を皆様にお届け
したいと思います。イベントに出掛けるもよし、おうちでのんびり涼むもよし、皆様の夏の予定を立
てる参考となれば幸いです。また、今回、編集者が2週間訪れた知的障がい者の入所施設での利用者
の方々の暮らし等もお伝えしたいと思います。では、第9号通信お楽しみに



～知的障がい者更生施設レポート～

2003年から2012年までの障害者施策の基本を定めた「新障害者基本計画(2002年12月)」では「施設等から地域生活への移行の推進」を大きな計画の柱として障害者入所施設整備抑制施策を提起し、入所施設整備の数値目標を掲げなかった。地域移行推進の背景には国の財政困難が大きく依拠しているが、先駆けての世界的な地域移行の動きや、従来の入所施設の地域から隔離された閉鎖的な空間、雑居生活や規則的な生活といった様々な現状を踏まえ、今日、国の福祉政策が地域移行へと向いている。

今回、筆者が訪問した知的障がい者入所施設は、地域移行に向け様々な取り組みがなされていた。現在、施設で生活されている方々、また地域生活をされている方々にとって、地域生活に向けたひとつの取り組みとして参考にして頂ければと思う。



この入所施設は城陽市内の静かな住宅街の中にあり、歩いて10分の場所に大型スーパー、駅も15分といった日々地域社会に触れることのできる環境の中にある。以前はこの施設は市内から外れた山のふもとにあり、周辺一体を法人の施設が有していた。地域との関わりは少なく現在と比べ閉鎖的な環境であったと言えよう。

現在、施設は個室が完備され、入浴も個別浴室・大浴場と利用者が選ぶことができる。食事は基本的な時間の規定はあるが、利用者の生活のペースに合わせて食べることができる。従来の雑居生活、生活規則に対して個々の利用者の生活を尊重する自由な雰囲気へと変わってきている。

就労においては、敷地の道路に面した場所に喫茶店が運営され、利用者の数名がウエイトレスとして勤めていた。マニュアルではない笑顔での「いらっしゃいませ」「ありがとうございます」という言葉はとても印象的であり、思わずこちらも笑顔になる。また、彼女はお客様に「いらっしゃいませ」と言う時が一番楽しいという。ここに一つの仕事のあり方が見える。

また、敷地内には自活訓練ホームがある。地域生活への移行を目的として利用者2名が6ヶ月～1年間の生活訓練を行う。従来の受け身の生活から、周囲の支えを受け自分自身で選択・決定し生活をつくっていく環境へと変わる。

このような取り組みの中で、今もなお施設が抱える課題のひとつとしては、利用者の外出の機会が制限されていることであるといえよう。福祉の国家予算削減により施設の職員だけでは、一人ひとりの利用者への十分な外出支援を行うことは困難であり、ボランティアなど外部との連携が重要となる。

今日、自立支援法施行に伴い経済的負担が増え、ますます障がいのある方々が自分の生き方を積極的に選択していくことが厳しい状況にあるといえよう。しかし、利用者一人ひとりが施設生活、グループホームや自立生活、家庭など様々な生き方を安心して選ぶことができるよう、社会資源の充実が急務である。その一つの支援のあり方として障がい者が重くとも適切な支えがあれば地域の中で暮らせる方々がその力を精一杯に発揮しながら、地域社会の一員として生きることを支援することをこの施設は目的としている。ゆうりんの家もまた「総合福祉事業の第一歩」として障がいのある方が自立する上において安心した生活が送れるよう、就労による所得保障・障がいに適した住居の提供、緊急時のケアへの対応など、総合福祉事業の充実に努める覚悟である。

(文責：船曳)



会員さん紹介

個人情報の保護により表示できません

😊 スタッフ紹介 😊



個人情報の保護により表示できません

ちょこっとバリアフリー情報

今回は、おいしい甘味処の情報をお届け致します(*^。^*)

都路里(つじり)祇園本店 (四条通祇園町南側)

営業時間 10:00 ~ 22:00(年中無休)

京都で有名な甘味処の一つ。四条通祇園にあるお店です。一階の抹茶ソフトはそのまま買って食べることができて、抹茶パフェを食べたい方は、一階奥にエレベーターがあり車椅子で入ることもできます。いつも土日は長蛇の列。お店の方によると午前中がおススメとのこと。

キルフェボン (木屋町通三条上ル恵比須橋角)

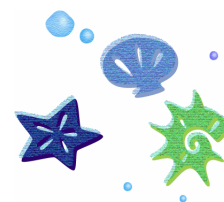
営業時間 11:00 ~ 20:00(年中無休)

関東に店舗が多いタルトケーキ専門店。場所は木屋町姉小路。タルトケーキばかりですが、10種類以上はあり、もちろん季節により変わります。入口に5cm程の段はありますが、店内は段差なし。ただ、有名店である為やはり人が多い。お店の方のお話によると土日は並ぶ場合が多く、平日の午前中からお昼過ぎまでだと比較的人が少なくゆったりしているとのこと。



どちらも美味しいと評判のお店です ぜひぜひ足を運んでみてください

さあ 夏休み目前

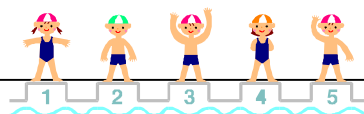


京都の夏は「祇園祭」が終わっても、まだまだフィーバー
京の街は「大文字の送り火」で再度盛り上がります。でもネ……

皆さんにとっての夏・イベント紹介コーナー（これから毎号イベント紹介をしていきます）

1. 「たまや～」こんな古めかしい掛け声が似合うのが、“花火鑑賞” ということで
2. 夏は水 水は夕立 夕立はイヤ イヤでないのは“プール遊び” ということで

開催日	花火大会 大会名	規模	プール
《京都》			障害者スポーツセンター（無料） TEL(075)702-3370 休 毎週火曜 京都バス 高野玉岡町バス停下車 伏見港体育館プール（通常料金の半額） TEL(075)611-7081 休 毎週火曜 京阪中書島駅下車すぐ 東温水プール（450円） TEL(075)571-3100 休 毎週月曜 京阪またはJR六地蔵駅下車 徒歩10～15分 京都アクアリーナ（無料） TEL(075)315-4800 休 毎週火曜7・8月無休 阪急西京極下車/市バス32系統西京極運動公園前下車 やまごえ温水プール（300円） TEL(075)861-7647 休 毎週月曜 市バス10・26・59系統山越下車 徒歩10分 上記料金は障害者料金となります 伏見港・障害者スポーツセンターは火曜が 祝日の場合は翌日休み
7月29日(土)	あやべ水無月まつり	約4000発	
7月30日(日)	第31回みなと舞鶴ちゃったまつり	約5000発	
7月30日(日)	木津川納涼大会	約1700発	
8月5日(土)	笠置夏まつり花火大会	約1000発	
8月5日(土)	たんば夏まつり	約1200発	
8月7日(月)	第55回亀岡平和祭保津川花火大会	約7000発	
8月10日(木)	第46回宇治川花火大会	約7000発	
8月14日(月)	第60回ドッコイセ福知山花火大会	約6000発	
8月15日(火)	2006 そのべ夏まつり	約2000発	
8月16日(水)	宮津燈籠流し花火大会	約3000発	
8月17日(木)	第41回瑞穂町納涼大会	未定	
8月26日(土)	第20回FUNAYAの里 バイエリアフェスティバル	約1000発	
《府外》			
8月5日(土)	第18回なにわ淀川花火大会	約20000発	
8月5日(土)	長浜・北びわ湖大花火大会	約10000発	
8月8日(火)	2006年びわ湖大花火大会	約10000発	



夏イベントの詳細内容は各ホームページや、ゆうりんの家まで気軽にお尋ね下さい。

お知らせ



ゆうりんの家 秋のレクリエーション 日時場所決定！！

日時：2006年9月3・4日（一泊二日）

場所：和歌山県白浜

白浜温泉・アドベンチャーワールド・とれとれ市場 他観光地

旅行の詳細については後日お知らせ致します。お楽しみに

最終〆切迫る！！ 7月末日まで（まだの方はお早めに・・・）

次回の「ゆうりん通信」は、大々的に旅行記を予定!! 乞うご期待!!!

～ 障害者とともに運営する「レストラン」「カフェ」が増えてきました～ でも・・・

今回その幾つかをご紹介します、福祉のお店とはどういうものか若干検証してみましょう。

まずは「おやまのレストラン“パズル”」京都中小企業家同友会障害者問題委員会のリーダー「レストラン思風都」の土井よし子オーナーが障害者への厚い想いを同委員会メンバーの協力と、総合介護施設「原谷こぶしの里」の理事長のご尽力で場所の提供を受け、ある共同作業所の仲間とともに立ち上げたレストラン2号店です。毎日作業所から数人の知的障害者がパズルに出勤。思風都の調理師1人が常勤し、仲間とともに調理や配膳など一般のレストランと全く同様に事業をしています。事業コンセプトは、メニューは毎日変える、野菜類は品数多くのバイキング、飽きを感じさせない、またカロリー計算も実施。通常のレストランに知的障害者が関与しているという形。店に当然味等の妥協などない。ただ障害者が働きやすい環境の整備は実に細かく配慮している。既にそこから、他のレストランに就労された障害者もでています。障害者に働く場の提供があり、本人と合えばすごい才能が発揮される現実がある。人材が埋もれるのが一番勿体ないと土井さんは云い続けます。



本格的レストラン「ほのぼの屋」は舞鶴市にある。(社福)舞鶴福祉会の運営。京都市内の一流ホテルの元総料理長が、常時全ての采配を振るわれている。実によく障害者全員が機能している。この分野の先駆けとして全国的にも注目を浴び、「いらっしやませ(ほのぼの屋)へ」(クリエイツかもがわ出版)という書籍にその詳細が掲載されている。立上げ法人の取り組み、責任所(料理長)の想い、奮闘のさま、収益面など一読されると目から鱗か。

またライトハウス建替えと同時に、「ふれあいカフェきらきら」がオープンされた。ここもかなり努力はされているが、様々な面で難しさもあるよう。京都授産振興センターの運営で、幾つかの作業所が曜日を決め、仲間が出勤するお店として、ひとまち交流館「ぴあ ひとまち」やハートピア内ロビーに「ふれあいサロンぴあ」があるが、あまり専門的でなく私には建物付属施設の『福祉食堂』という感覚とうつつ。出店の意図も違うだろうが、一般のレストランのような感覚は持ち合わせてないのも特徴か？失礼を承知で言えば、一般企業が長かった私にはなんと勿体ない(=やっぱり福祉か)と思ってしまう。



個人的に注目しているのは、「ゆうりんの家」から歩いて3分龍谷大学内の「樹林」。キャンパス正門を入った真ん中、円形の新施設内にこの4月にオープンした。大学の先生などが中心になり、就労機会の増大と福祉系として学生にもアピールし、そこで障害者と一緒に作業すれば単位取得も可能にするなども目的として出店された。大学と福祉店舗の融合は各地で活発に論議されているが、実施されたのはわが国で最初。ただ、当初予想の客数が非常に低迷している点が問題。立上げ社福法人がもし「しょうがないナ福祉やし、継続してたらいいヤン」と考えていれば実に残念。現場の新規就労の想いが社福本部と合致すること、その一線が福祉店舗と障害者が働く事業所との違いとなって現れるのであろう。

まだまだ同様の店舗はありそうです。前述の土井さんは、成功の秘訣をその道のプロと一緒にするのが一番と云われる。レストランなどは特に料理のプロと障害者仲間の意思の疎通が図られたときがスタートライン。調理のプロが味を整えメニューバランスも考え、仲間たちが真摯に対応し共感を得る。「安いし美味しいしまた行きたいネ」と思わせるものの提供が基本。それらの努力が先輩を一般就労に、また新たな仲間の学習の場に行ける。彼女はまた「食事は毎日のもの。すたれないものがこの分野の事業に適していると考えています」と云う。次は野菜を提供してくれる農家などで障害者が働く場の確保ができれば、私たちレストラン従事者は契約野菜として調達ができると云われます。夢は実に大きいし、共感しつつ私は応援したい。皆さんは・・・？(本編取材：塩谷)

編集後記

最近“暑っっ～”“暑いわぁ～”って声が事務所内を飛び交っていますが、私は夏が大好きです！身体を動かすににくい私にとっては服の重さも苦になったり...でも夏は薄着になるので身体を動かしやすい！その分外出もしやすくなるし！各地でいるんなイベントが催されていますが、今年は花火に行ってみたいと思っています。ゆうりんの家でみんなで行ける“花火企画”があったらいいのに・・・(T.M)

花火もいいけど、夏はプールが一番。去年は毎週ガイヘルでプール遊び。私自身が楽しんだ。障害者施策も随分昔と違ってきた。選択肢が広がるなら良いことだが。また就労機会も各所で高まっている。でも単に「福祉」の冠が付くだけでいいのだろうか？福祉店舗の成功が難しいのは、「福祉やし」と思っているから？仕事はプロと一緒にやらねば!! 龍大内の「樹林」さん、今回の試み絶対に成功してネ。(T.S)

今年の夏こそ美白でいこうと思っていたのに夏本番を目の前にすでに真っ黒に日焼けしてしまっている私・・・それでも日焼け止めと帽子は手放せません(>_<) 今回の通信では内容の幅を広げ、イベント情報やコラムなども盛り込みました。いかがでしたでしょうか？読んで楽しみ役立つ内容にしていきたいと考えています。まだまだ未熟な私が、読んでくださっている皆様や周囲のスタッフに支えられ、「ゆうりん通信」とともに自身も成長できればいいな。これからもよろしく願います。(編集長)